

2024年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB公開用）高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [川村緒人]

学年・組・番号 [3年 J組 8番]

研究課題： 華北自治運動の歴史的意義——香河事件の主体、思想的背景の視点から
(英文) Historical Significance of the North China Autonomy Movement
: From the perspective of the actor and ideological background of the Xianghe Incident

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

1935年10月、河北省香河県の農民2000人が県政府を打倒し、自治政府を組織した香河事件は最大規模の華北自治運動であった。この農民による自治政府はわずか一週間足らずで解散されたものの、同事件が華北地域に与えた政治的影響は甚大だった。香河事件のように、きわめて局地的かつ短期間の運動が日本軍や南京政府の華北政策に多大なる影響を与えた要因は一体、何だったのだろうか。本研究はこうした問題意識から、自治運動の担い手として先行研究で強調されてきた地方有力者ではなく、香河事件のような農民に着目し、主体と思想的背景という2つの視角から華北自治運動の実態を歴史的に再検証するものである。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

華北自治運動に関する先行研究は、1935年以降に日本軍が進めた華北分離工作に代表される大陸政策や、華北問題をめぐる日中間の政府レベルでの外交交渉などのいわゆるマクロな視点からの研究が主流であった。それに対し本研究は、自治運動の本来の担い手である農民に着目したいわゆるミクロな視点での華北自治運動研究である。華北自治運動を「下からの視点」からみることによって、従来の「上からの視点」では浮き彫りにならなかった農民主体の自治運動の実態を明らかにした。その実態とは、日本軍による華北分離工作の補助的な一過性の運動ではなく、独自の政治思想を持った華北農民自治運動であったということである。これは、1935年以降の抗日運動の激化や日中両国の華北を舞台とした本格的な衝突に直結する、多大な政治的影響力を持った政治運動であった。

香河事件の先行研究には、最初に華北自治運動について実証的に取りあげた秦郁彦「華北分離工作の失敗(2)」があり、香河事件の詳細が記されている当時の一次史料である『北支の政情』を紹介している。しかし、その後の自治運動研究では、当時の一次史料はおろか『北支の政情』すらほとんど用いられていない。そのため、本研究では、本来の自治運動の担い手である農民に着目するために『北支の政情』などの当時の一次史料を大いに活用して研究を行った。

なお本研究の一環として取り組んだ「地域の視点からみた華北自治運動の実態——香河事件の主体、思想的背景の視点から」(16,000字)を、板橋区教育委員会が公募する令和6年度「第23回櫻井徳太郎賞(高校生の部)」(令和6年9月24日募集締め切り)に応募し、同部門において佳作を受賞した(令和6年12月19日受賞通知受け取り)。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 川村緒人

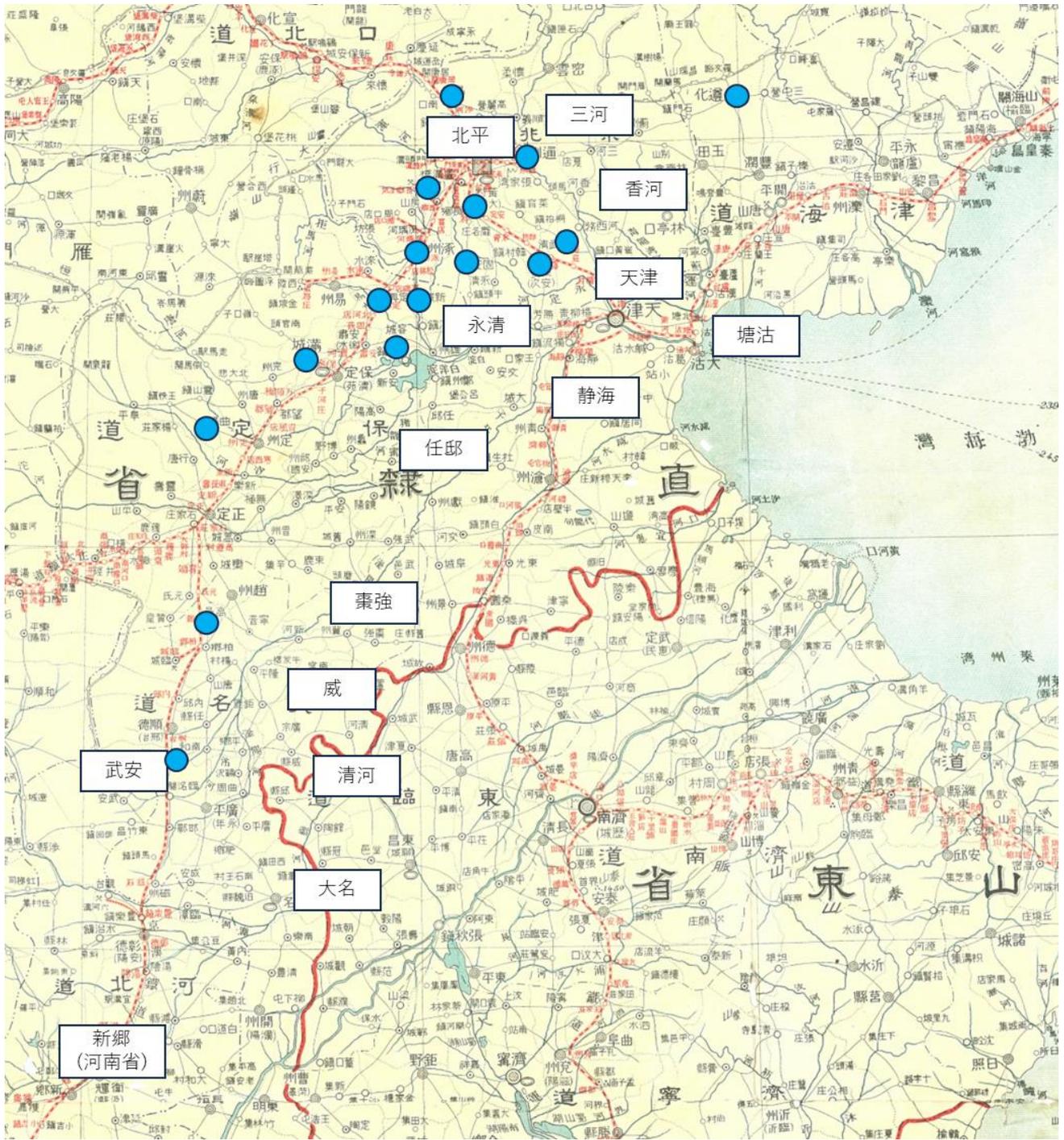
担当教諭 柿沼亮介

(受給額： 26,000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



図：華北自治運動の発生場所

(出典)『名古屋新聞特別付録』『北支の政情』をもとに筆者作成。
凡例 □の地名：主な運動の発生場所、●：その他の運動の発生場所